

柏市郷土資料展示室の第5回企画展

昭和初期、いまの豊四季団地にはゴルフ場を併設した競馬場があった。第1回柏競馬は3日間で9万人を集め大賑わいだったが、戦争で閉鎖。それが柏市郷土資料展示室の前の企画展、第5回展は、手紙・こころを伝える文字展。携帯やメールに追われ、手紙も影が薄い。せめては文人たちの筆の動きを見んと。

手紙とのれん



簡潔・明快な芹沢銈介の のれん

①型紙と防染糊をつかう「型染」の芹沢銈介作品の「NOR EN其の2」。独特の多彩な模様が描かれたのれんの2回目。触れてくぐってみたい世界。

②手賀村字布瀬(柏市布瀬)出土とされる馬型埴輪。高さ80センチ、長さ70センチ。東京大学総合研究博物館蔵。



多彩な顔ぶれの手紙を通して、文字の持つ意味を見つめなおし、柏の歴史に触れる

左端の掛け軸は、明治の詩人・評論家の大町桂月(一八六九—一九二五)の作品。家を離れて人なく、国を離れて、家なく、天皇を離れて、日本なし。

国粹主義者らしい桂月だ。その桂月の娘が大正十二年、沼南・鷺野谷の染谷家に嫁ぎ、その翌年に娘のもとを訪ねて歓待された。墨痕鮮やかな札状が展示されている。

先達は鷺野谷の／尊邸にて御馳走に預かり、難有存申候／東京より僅に十里にして、山中的の／仙境あるかと驚喜いたし候。手賀沼は／印旛沼よりも、風致大に優り申候。我孫子／駅より尊邸まで一步一景悉く／画致有之。殊に鷺野谷は三方湖／(今は大部分田となれり)に囲まれたる丘陵／・古の豪族の根拠として……

と、土地ほめが続き、村の香取祠などに感服している。美文調で有名な紀行文の趣きを感じさせる。

染谷家には、多くの桂月文書が残されていたのだろう。名戸ヶ谷の旧家・藪崎恒雄さんが主宰する、弥惣治文庫・文芸資料館には、三百点の桂月文書が展示されている。今回の企画展も藪崎家や染谷家からの出品が多い。

歌人の土岐善麿、与謝野寛、齊藤茂吉、窪田空穂の筆遣いも見られる。また本埴村に吉植庄亮という歌人がいて、印旛沼の開墾につとめ、農民の生活詠が多いことを知る。いささかの傷には泥をなすりつけ百姓のわれはつつがもあらず

末広クラブ・逆井漫步144 平成22年4月

◇柏市郷土資料展示室 柏市沼南庁舎の2階に3年前に開館。無料、月曜休館。1階はこども図書館になっている。Tel 04-7191-1450